

⑧ 財務・会計

【総評】

令和8年度の本試験は、前年度までの設問数と同じ25問であった。前年度はすべて4肢択一の問題であったが、今年度は5肢択一の問題が2問出題されている。

出題内容は、会計分野（財務会計・管理会計等）が13問（前年度13問）、財務分野（ファイナンス）が12問（前年度12問）であった。近年は、会計分野からの出題割合が高くなっており、前年度に引き続き、今年度も会計分野の出題割合が高かった。出題論点を考慮すると、難易度が高い問題も出題されたが、正解が1つに絞れる問題も多く出題されており、全体的な難易度は標準レベルであったと思われる。したがって、得点すべき基本問題を確実に得点した上で、その他の問題で出来るだけ得点することができれば、合格ラインの60点以上を獲得することができたと思われる。

出題パターンを見ると、計算を必要とする問題は9問（前年度11問）であり、前年度に続き例年よりやや少なかった。このうち、比較的計算しやすい問題で得点を積み重ねられたかが重要となる。特に第9問（連結貸借対照表）、第11問設問2（財務指標の計算）、第13問（部門責任者の業績評価）、第17問（差額利益）、第18問（正味現在価値）は正解をして欲しい問題である。

一方、計算を必要としない問題も例年並みの16問（前年度14問）であり、これらの問題については、得点しやすい問題とそうでない問題とをしっかりと区別して、得点できる問題について、いかに確実に解答できたかが重要となる。特に、第3問（決算整理後残高試算表と貸借対照表の表示）、第5問（有形固定資産）、第8問（計算書類の表示）、第10問（キャッシュフロー計算書）、第11問設問1（財務指標の公式）、第15問（MM理論）、第16問（企業間信用）、第21問（企業評価方法）は正解をして欲しい問題である。

以上